

49:29 彼はまた彼らに命じて言った。「私は私の民に加えられようとしている。私をヘテ人エフロン
の畑地にあるほら穴に、私の先祖たちといっしょに葬ってくれ。 49:30 そのほら穴は、カナンの
地のマムレに面したマクペラの畑地にあり、アブラハムがヘテ人エフロンから私有の墓地とする
ために、畑地とともに買い取ったものだ。 49:31 そこには、アブラハムとその妻サラとが葬られ、
そこに、イサクと妻リベカも葬られ、そこに私はレアを葬った。 49:32 その畑地とそこにあるほ
ら穴は、ヘテ人たちから買ったものである。」 49:33 ヤコブは子らに命じ終わると、足を床の中
に入れ、息絶えて、自分の民に加えられた。

50:1 ヨセフは父の顔に取りすがって泣き、父に口づけした。 50:2 ヨセフは彼のしもべである医者
たちに、父をミイラにするように命じたので、医者たちはイスラエルをミイラにした。 50:3 その
ために四十日を要した。ミイラにするにはこれだけの日数が必要だった。エジプトは彼のために
七十日間、泣き悲しんだ。 50:4 その喪の期間が明けたとき、ヨセフはパロの家の者に告げて言っ
た。「もし私の願いを聞いてくれるのなら、どうかパロの耳に、こう言って伝えてほしい。 50:5
私の父は私に誓わせて、『私は死のうとしている。私がカナンの地に掘っておいた私の墓の中に、
そこに、必ず私を葬らなければならない』と申しました。どうか今、私に父を葬りに上って行か
せてください。私はまた帰って来ます、と。」 50:6 パロは言った。「あなたの父があなたに誓わ
せたように、上って行ってあなたの父を葬りなさい。」 50:7 そこで、ヨセフは父を葬るために上
って行った。彼とともにパロのすべての家臣たち、パロの家の長老たち、エジプトの国のすべて
の長老たち、 50:8 ヨセフの全家族とその兄弟たちおよび父の家族たちも上って行った。ただ、彼
らの子どもと羊と牛はゴシェンの地に残した。 50:9 また戦車と騎兵も、彼とともに上って行った
ので、その一団は非常に大きなものであった。 50:10 彼らはヨルダンの向こうの地ゴレン・ハアタ
デに着いた。そこで彼らは非常に荘厳な、りっぱな哀悼の式を行い、ヨセフは父のため七日間、
葬儀を行った。 50:11 その地の住民のカナン人は、ゴレン・ハアタデのこの葬儀を見て、「これは
エジプトの荘厳な葬儀だ」と言った。それゆえ、そこの名はアベル・ミツライムと呼ばれた。こ
れはヨルダンの向こうの地にある。 50:12 こうしてヤコブの子らは、命じられたとおりに父のため
に行った。 50:13 その子らは彼をカナンの地に運び、マクペラの畑地のほら穴に彼を葬った。そこ
はアブラハムがヘテ人エフロンから私有の墓地とするために、畑地とともに買ったもので、マム
レに面している。 50:14 ヨセフは父を葬って後、その兄弟たちおよび、父を葬るために彼といっし
よに上って行ったすべての者とともに、エジプトに帰った。 50:15 ヨセフの兄弟たちが、彼らの父
が死んだのを見たとき、彼らは、「ヨセフはわれわれを恨んで、われわれが彼に犯したすべての
悪の仕返しをするかもしれない」と言った。 50:16 そこで彼らはことづけしてヨセフに言った。
「あなたの父は死ぬ前に命じて言われました。 50:17 『ヨセフにこう言いなさい。あなたの兄弟た
ちは実に、あなたに悪いことをしたが、どうか、あなたの兄弟たちのそむきと彼らの罪を赦して
やりなさい、と。』今、どうか、あなたの父の神のしもべたちのそむきを赦してください。」ヨ
セフは彼らのこのことばを聞いて泣いた。 50:18 彼の兄弟たちも来て、彼の前にひれ伏して言った。
「私たちはあなたの奴隷です。」 50:19 ヨセフは彼らに言った。「恐れることはありません。どう
して、私が神の代わりでしょうか。 50:20 あなたがたは、私に悪を計りましたが、神はそれを、良
いことのための計らいとなさいました。それはきょうのようにして、多くの人々を生かしておく
ためでした。 50:21 ですから、もう恐れることはありません。私は、あなたがたや、あなたがたの
子どもたちを養いましょう。」こうして彼は彼らを慰め、優しく語りかけた。 50:22 ヨセフとその
父の家族とはエジプトに住み、ヨセフは百十歳まで生きた。 50:23 ヨセフはエフライムの三代の子
孫を見た。マナセの子マキルの子らも生まれて、ヨセフのひざに抱かれた。 50:24 ヨセフは兄弟た
ちに言った。「私は死のうとしている。神は必ずあなたがたを顧みて、この地からアブラハム、
イサク、ヤコブに誓われた地へ上らせてくださいます。」 50:25 そうして、ヨセフはイスラエルの
子らに誓わせて、「神は必ずあなたがたを顧みてくださるから、そのとき、あなたがたは私の遺
体をここから携え上ってください」と言った。 50:26 ヨセフは百十歳で死んだ。彼らはヨセフをエ
ジプトでミイラにし、棺に納めた。

はじめに

ヨセフの人生シリーズは最終回となりました。

これまで、とても興味深いやりがいのある学びでした。皆さんも、このシリーズから励ましや今後取り組むべき信仰の課題を示されたことと願います。

次のシリーズ説教は、詩篇を予定しています。4月22日を第一回とし、詩篇1篇から学びます。詩篇シリーズを始める前に、イースターの学びをし、その後4月8日と15日には特別講師を迎えます。この二週は、他の説教者をとおして神の真理について聞く機会となります。

詩篇シリーズは少なくとも7月末までは継続する予定です。

この期間に、詩篇を使って賛美したり、祈りの時間に日常私たちが使っている言葉で詩篇を祈ったりしていきたいと考えています。

今日の説教は、2月25日に学んだ個所のつづきとなります。

ヤコブは、息子たちを祝福し終え、最後にひとつ彼らに頼み事をします。

1. ヤコブが息子全員に最期の頼み事をする。(49:29-33)

49章29-33節で、ヤコブは最期のお願いをします。

それは、アブラハムが昔購入した土地に埋葬してほしいというものでした。(創世記23:8-20)

ヤコブは、神が祖父アブラハムにされた約束を信仰によって信じていました。それでこのように頼んだのです。

ヤコブは、いつか子孫たちが約束の地カナンに住み、世界を祝福するようになると信じていました。

こう頼んで、ヤコブは息を引き取りました。

ヤコブの最期の言葉は、神の約束を信じる信仰を示すものでした。

適用

私たちの場合、遺骨をどうするかという選択にヤコブほどの深い意味はないかもしれませんが、しかし、ここには私たちにとって大切な教えがふたつあります。

ひとつは、私たちが家族に遺す最期の言葉についてです。

自分の葬儀についてまだ考えたこともないかもしれませんが、考えるべきだと私は思います。とくに、家族や親類がノンクリスチャンだという日本人クリスチャンにとってこれは重要です。

今年の教会総会で、葬儀に関する希望について記入する用紙などをセットでお渡しします。

これを皆さんに読んでいただきたいと思います。

これは、あらゆる意味で重要です。

まず、自分がいつ死ぬかは誰にも分かりません。ですから、私たちの葬儀の手配を誰がしてくれるかもわからないのです。

私たちクリスチャンは、家族や友人に最期に伝えたいことがあるはずで

その言葉は、ノンクリスチャンの親族に考える機会を与えることとなるでしょうし、クリスチャンの家族や友人にとっては励ましとなります。

私は牧師として、これまで約40件の葬儀を執り行った経験があります。

故人が生前に賛美や聖書個所を選び、短い証も準備してあった葬儀は、とても良い葬儀でした。神がもっとも栄光をお受けになる葬儀です。

良い葬儀を行えると、遺族の方々にとっても慰めとなります。

日本では、神道や仏教式の葬儀とキリスト教式の葬儀の違いを明確にする必要性があります。

ですから、自分の葬儀の手配をノンクリスチャンの親族に任せっぱなしにしないでください。

今度お渡しする用紙を記入して、死亡時のみ開封という条件で封じて保管しておくことができます。その封筒はOICから他教会に移っても持っていきます。

また、証の差し替えや手配内容の変更のため、定期的に更新することもできます。

次に、私たちの死後の未来についてです。

すべてのクリスチャンは、未来について信仰をもって死んでいきます。

私たちが死ぬ前にイエスの再臨が起こらない限り、私たちクリスチャンは信仰をもって死んでいきます。

つまり、私たち自身のよみがえりについての神の約束を信じて死ぬということです。

では、現代の私たちに神が約束されたこととは何でしょう。

ヨハネ 11 : 21-26

11:21 マルタはイエスに向かって言った。「主よ。もしここにいてくださったなら、私の兄弟は死ななかつたでしょうに。 **11:22** 今でも私は知っております。あなたが神にお求めになることは何でも、神はあなたにお与えになります。」 **11:23** イエスは彼女に言われた。「あなたの兄弟はよみがえります。」 **11:24** マルタはイエスに言った。「私は、終わりの日のよみがえりの時に、彼がよみがえることを知っております。」 **11:25** イエスは言われた。「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。 **11:26** また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことはありません。このことを信じますか。」

ローマ 6:5 もし私たちが、キリストにつき合わされて、キリストの死と同じようになっているのなら、必ずキリストの復活とも同じようになるからです。

コリント第一 15 : 19-23

15:19 もし、私たちがこの世にあってキリストに単なる希望を置いているだけなら、私たちは、すべての人の中で一番哀れな者です。 **15:20** しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。 **15:21** というのは、死がひとりの人を通して来たように、死者の復活もひとりの人を通して来たからです。 **15:22** すなわち、アダムにあってすべての人が死んでいるように、キリストによってすべての人が生かされるからです。 **15:23** しかし、おのおのにその順番があります。まず初穂であるキリスト、次にキリストの再臨のときキリストに属している者です。

テサロニケ第一 4 : 13-14

4:13 眠った人々のことについては、兄弟たち、あなたがたに知らないでいてもらいたくありません。あなたがたが他の望みのない人々のように悲しみに沈むことのないためです。 **4:14** 私たちはイエスが死んで復活されたことを信じています。それならば、神はまたそのように、イエスにあって眠った人々をイエスといっしょに連れて来られるはずで

聖書には、すべての信徒がイエスとともに永遠のいのちへと復活するという約束がたくさん記されています。今後イースターまでで、その約束をいくつか学ぶ予定です。

これらふたつの教えは、とても重要ですので、しっかりと受け止めてください。

2. ヤコブの埋葬とその準備 (50 : 1-14)

50 : 1-14 は、ヤコブがヨセフにとってどれほど大切であったか、またヨセフがエジプトでどれほど尊敬される存在であるかを示しています。

また、ヨセフの人格についても教えてください。

ヤコブが亡くなる 17 年前、ヨセフは父と再会したとき、父の首にすがって泣きつづけました。
(創世記 46 : 29)

そのときと同じような情景が描かれていますが、今度は悲しみの涙です。

ヨセフが父親を愛していたことは明らかです。

ヨセフは「医者たち」に父親の遺体をミイラにするよう命じたとあります。これは注目すべきポイントです。

当時のエジプトでは、オシリス神信仰の影響で、人が死ぬと、経済状況によって精度に格差はあるものの、遺体はすべてミイラにされました。
ミイラにするのは通常、医者ではなく異教の祭司の仕事です。
ここで学ぶのは、エジプトで絶大な権威を持つヨセフが、アブラハム・イサク・ヤコブの神を敬いたたえようとしていたことです。
ヨセフは、父親の遺体をミイラにし、葬儀の準備をする過程に、異教の不健全な風習をかかわらせないようにしました。
これは、私たち自身の日常でも努めるべきことです。
私たちの生き方に違いがあれば、人はそれに気づくでしょう。
ヤコブの死後、喪の期間として 70 日間が設けられました。
エジプト人の通常の喪の期間は 40 日間でした。
一方、ヘブル人の通常の喪の期間は 30 日間でした。

民数記 20:29 全会衆はアロンが息絶えたのを知った。そのためイスラエルの全家は三十日の間、アロンのために泣き悲しんだ。

申命記 34:8 イスラエル人はモアブの草原で、三十日間、モーセのために泣き悲しんだ。そしてモーセのために泣き悲しむ喪の期間は終わった。

エジプトとヘブルの両方の喪の期間を足すことで、ユダヤ人の信仰とエジプトの文化の両方に敬意を払おうとしたことがうかがえます。
大半の人は、ヨセフをエジプト人とみなしていましたが、彼は実際にはヘブル人だったからです。

4 節で、ヨセフは喪の期間が明けると、カナンの地にある先祖の墓地に父の遺体を埋葬しに行く準備をしたとあります。

ヨセフは、埋葬について父と約束したからだとその理由をパロに説明しました。
父の遺体をカナンの地に埋葬するために移送するのは、たいへんなことでした。

7-9 節から、大勢の人が関わったことがわかります。

パロの宮廷の家臣全員、エジプトの長老たち全員、そして戦車や騎兵もいっしょに行きました。

ヨセフの兄弟全員とヨセフの家族も行きました。

残されたのは、家畜と子どもたち、そして、子どもたちの世話をしなければならない母親たちだけでした。

少なくとも 200 人以上はいたでしょう。

騎兵は、途上で一行が強盗などに襲われないよう護衛するためです。

現代に置き換えて言うなら、天皇や国王、首相、大統領などが亡くなった際に行われる国葬のような様子だったでしょう。

埋葬に関わる一連の儀式は少なくとも 3 週間かかったと思われます。

ここでひとつ注目したいのは、哀悼式のためにゴレン・ハアタデ（アタデの打穀場）で 7 日間滞在したことです。

現地の人々はそのりっぱな儀式を見て、その町の名を「アベル・ミツライム」に変えました。それは、「エジプトの喪」という意味です。

当時のヘブル人は、感情をあらわにし、劇的な行動をとって喪に服しました。

大声で泣く、服を引き裂く、断食、頭を剃る、裸足で荒布をまとう、などがその一例です。

それは、現地の人々にとって印象的な光景だったでしょう。

では、なぜ喪に服するのに打穀場で滞在したのでしょうか。

その答えは非常に興味深いものです。

霊的な「打穀場」の意味がわかると、「打穀場」で滞在した理由もはっきりしてきます。

打穀場には、大きな石版がふたつあります。

それらは、重ねられてひとつにつながっています。

上の石は雌石、下の石は雄石です。
このふたつの石の間で穀物をひく行為は、結婚を描く象徴でした。
また結婚は、神が人との間に望まれる霊的交わりを描くものでした。
神の民が神から離れて他の神々を崇めることを、神は姦淫と呼ばれます。

ホセア 4:12 わたしの民は木に伺いを立て、その杖は彼らに事を告げる。これは、姦淫の霊が彼らを迷わせ、彼らが自分たちの神を見捨てて姦淫をしたからだ。

ホセア 9:1 イスラエルよ。国々の民のように喜び楽しむな。あなたは自分の神にそむいて姦淫をし、すべての麦打ち場で受ける姦淫の報酬を愛したからだ。

ヘブル人にとって、「打穀場」は神との出会いと礼拝の場を指し示していました。
打穀場は麦からもみ殻を取り除く場所です。
もみ殻は、穀物が育つ間はその穀物を守る役割を果たしますが、収穫されると取り除かれます。
私たちが OIC に来るとき、それは「神の打穀場」に来ているということなのです。
礼拝をささげるこの場所で、私たちは神に心を開きましょう。神は私たちに練りきよめ、聖書の神との霊的な絆の妨げとなるものを手放すよう促されます。
ヨセフと家族が打穀場で滞在した 7 日間は、ただ喪に服すためだけではありませんでした。
それは、神と出会うためであり、将来のために神によって練りきよめられ、備えられるためでした。

適用

OIC での礼拝は、歌を歌って友だちに会って、昼ご飯を食べに行くところと思いませんか。
礼拝はそれ以上のものです。
皆さんが、生ける神との出会いを期待して心を開いておられることを願います。

3. ヨセフが神の恵みと摂理について語り、兄弟たちを安心させる。(15-21 節)

15-18 節を読むと、ヨセフの兄弟たちは 17 年前にヨセフが恵みをもって彼らを赦したことをちゃんと理解していないことがわかります。

父ヤコブが死んだ今、ヨセフが彼らを恨んで復讐するだろう、と兄弟たちは思いました。
その過去について覚えていますか。

ヨセフの兄たちは彼にひどい仕打ちをして、通りかかった行商にヨセフを奴隷として売り飛ばし、彼のお気に入りの上着を動物の血に浸して、ヨセフは死んだものと父親に思わせました。

兄弟たちは、ヤコブの遺言だと嘘をつきました。
嘘について、自分たちの身を守ろうとしたのです。
ヨセフは、その嘘に優しく答えました。

まず、ヨセフは兄たちに対して神のようにふるまうつもりはないと言いました。

ヨセフは確かに、エジプトでは絶大な権力者でした。

兄たちに仕返しするようサタンに誘惑されたでしょうが、ヨセフはそうしませんでした。
彼は、聖書の神をしっかりと理解していたからです。

また、神との関係において自分がどのような者であるかを心得ていました。

それは、神のしもべという立場です。

ヨセフは、神がご自身の恵みと赦しによって人々を取り扱われると信じ、神を信頼していました。

神のみが人の心を知ることができます。また、心だけが神を知ることができるのです。

ですから神は、私たちの神に対する心の姿勢に基づいて正義を下されます。

新約聖書でふたつの箇所が、そのことについて語ります。

ローマ 12:19 愛する人たち。自分で復讐してはいけません。神の怒りに任せなさい。それは、こう書いてあるからです。「復讐はわたしのすることである。わたしが報いをする、と主は言われる。」

テサロニケ第一 5:15 だれも悪をもって悪に報いないように気をつけ、お互いの間で、またすべての人に対して、いつも善を行うよう務めなさい。

次に、ヨセフは、兄たちの行為は悪かったけれども、そこに神の摂理が働いていたことを指摘しました。

ヨセフは、兄たちのしたことが悪くなかったとは言いませんでした。そうではなく、神がご自身の目的を果たすために困難な状況を用いることがおできになると指摘しました。

これは、ヨセフの話の中で多くの人々が理解に苦しむ部分です。

ある注解者は、「悪い人の罪をとおして、神がよい目的を成就される」と言いました。

預言者エレミヤは、これと同じ真理を語り、捕囚として外国に連行される神の民を励ました。

エレミヤ 29:11 わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。――

【主】の御告げ――それはわざわざではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。

さらに、ヨセフは兄弟たちに優しく語りかけ、物心両面で彼らを支えると約束しました。

神は、ヨセフをとおしてヨセフの兄弟たちに恵みを施しておられました。

ヨセフが兄弟たちを愛し支えることができたのは、神の愛と恵みをしっかりと理解していたからです。

神の愛が、ヨセフをとおして兄弟たちに注がれたのです。

適用

これは、私たちクリスチャンにとって大きな課題です。私たちが心も頭も神の愛に満たされるなら、その愛は他の人たちに注がれるでしょう。

私たちが神の愛に満たされていなければ、他の人に提供できるようなものは私たちには何もありません。

人間の愛とは違い、神の愛は自然を超越しています。

だからパウロは、聖霊に満たされるようにとクリスチャンに常々勧めていたのです。（エペソ 5:18）

神の愛は、無慈悲な世の中で傷ついた人にとって、力強い証となります。

福音を分かち合うきっかけとなる場合もあります。

ヨセフは、旧約聖書におけるもっとも完全なキリストの型です。

ですから、ヨセフの愛は、イエス・キリストの愛を映します。

キリストの型とは何でしょう。

キリストの型とは、旧約聖書でイエスを映し出す人物です。

ヨセフの人生における出来事で、類似する出来事がイエスにも起こったというものが約 50 例あります。

今日は時間の関係で、その出来事を挙げて学ぶことはできませんが、興味のある方は、個人的にその出来事について読んでみてください。

4. ヨセフの死 (22-26 節)

22-26 節には、ヨセフの死について記されています。ヨセフは 110 歳で亡くなりました。

110 年の人生のうち、93 年はエジプトで過ごし、そのほとんどを特権階級として暮らしました。

ヨセフは、孫たちとも過ごすことができました。

箴言 17:6 孫たちは老人の冠、子らの光栄は彼らの父である。

孫のいる年齢の方は、孫と過ごせることが祝福だとわかるでしょう。聖書も、それは老人にとって特別な恵みのひとつだと語ります。私も、8月に娘の双子の子どもたちと過ごせるのを楽しみにしています。そのころには1歳半で、遊んであげるのも楽しい時期です。私たち夫婦でひとりずつ面倒を見れば、娘も少しはゆっくりできるでしょう。聖書の言うとおりで。孫は老人にとって大きな祝福です。

ヨセフは、穴に投げ込まれて死ぬまで放っておかれるところでした。また、奴隷として売られました。婦女暴行の濡れ衣を着せられ、何年も投獄されました。そのような経験を除けば、神の祝福に満ちた一生だったと言えます。

24節で、ヨセフは神が必ずエジプトにいるヘブル人を顧みて、アブラハム・イサク・ヤコブに約束された地へと連れ出してくださる、と家族に語りました。

そして、彼の遺体をエジプトから運び出すと親族に誓わせました。

彼の遺体を先にそこに運ぶという負担を親族に負わせることはしませんでした。ただ、将来のいつか、子孫たちとともに遺体を運んでもらえるということで満足しました。

創世記の最後は、信仰で締めくくられています。

ヨセフとその家族は、未来のいつの日か、神が彼らをエジプトから約束の地に導いてくださると信じました。

出エジプト記を読むと、彼らの信仰がすばらしいかたちで報われたことがわかります。

出エジプト記の20章までは、いつか必ず皆さんと学びたいと思います。